

居場所を失った人への緊急応援活動助成 第8回

～外国にルーツのある子ども・若者への継続的な学習支援事業 支援団体のネットワークと支援者の人材育成の強化で～活動報告

特定非営利活動法人にわたりの会

赤い羽根共同募金会に寄付して下さった皆様へ

今年度も皆様のおかげで日本語や教科の学習で困っている人を助けることができました。本当にありがとうございました。

活動の概要

居場所を失った人への緊急応援活動助成を受け、日本語教育や高等学校進学のための教育支援を実施しました。小学生であった子どもたちは成長とともに中学生、高校生となり、日本語力の不足による留年や退学を防ぐことに努めました。

また、ウクライナ避難民やシリア難民の大人および若者への支援を行いました。支援を必要とする人々の年齢層や国籍が拡大しているため、同じ志を持つ団体と協力し、彼らの生活を支えてきました。

さらに、支援者の数と質の向上を目指し、インストラクター講座を開催して支援者の増加を図りました。また、支援の継続性を確保するため、支援を受けていた人々が支援者となる仕組みを整備し、生活の安定に向けた技能習得や資格取得を支援しました。

本助成による活動の成果

1. 外国人集住地区に学習支援のための教室を3か所設置し、小中学生の宿題の手伝いや基礎的な日本語教育を実施しました。
2. 進学希望者に対して、進学に必要な日本語教育および教科教育を提供しました。特に、来日間もない外国ルーツの中学生や、日本で長年生活しているものの学習内容に習熟していない生徒に対して、高校入試のための支援を行いました。
3. 定時制高校に進学した生徒が進級できるよう、高等学校と連携し、日本語力および学力向上を支援しました。その結果、1名の生徒が退学の危機に直面しましたが、本人と保護者を説得し、退学を回避することができました。
4. 市役所の子ども関連部署と連携し、ヤングケアラー状態の生徒4名を日本語支援教室につなぐことができました。また、非行に走った若者にも寄り添い、生活の安定を支援しました。
5. 難民状態の生徒に対し、NPO法人リビング・イン・ピース（LIP）と協力し、オンラインで日本語指導サービスを提供しました。その結果、就職が決まった方や生活が改善した方が12名に上りました。



課題と今後の取り組み

ネットワーク構築と支援者養成

- 日本語教室の運営を担える人材を育成する。
- 難民状態の生徒に対し、LIP と協力したオンライン日本語指導サービスを継続的に提供する。
- 日本ウクライナ文化協会と連携し、避難民への日本語教育を実施する。
- 小牧市内の高校と連携を強化し、ネットワークのさらなる拡充を図る。
- JLPT N3 レベルの指導ができる支援者の数が不足しており、今後も育成を進める必要がある。
- 年少者の特性を活かした支援ができる人材も不足しているため、今後の養成が求められる。
- 多拠点・多人数での活動を継続するため、ネットワークの構築と運用を進める。
- 生徒および支援者の管理のためのスタッフを配置することを目指す。現時点では実現に至っていない。今後も協力者を募り、効率的な活動ができる体制を整えていく。